

ビジュアルコミュニケーション

Visual Communication

巻頭言

広がるマルチメディアコミュニケーションの応用

Rapidly Spreading Multimedia Communication Applications

各種アイデアや製品などの情報が瞬時に世界中を駆け巡る今日、企業が競争に勝ち、利益を上げながら成長するためには、どこよりも早く創造性やイノベーションの種を見いだすことがますます重要になります。また、誰もが情報を発信したり、受け取ることのできるインターネット環境では、自社内だけでなく、一般消費者や他企業との協調、共創によって価値を生み出すなど、コミュニケーションによる価値創造活動の重要性が増大しています。

スピードをもって価値創造活動を行うために、業務効率を高め、価値創造のためにより多くの時間を割くことができようにするための機能を具備し、世界中のどこにいても、時間と空間を超えて、ビジュアルに打合せができるコミュニケーションシステムが求められています。

1876年、グラハム ベルが電話を発明して以来、音声用に帯域を割り当てて情報を伝送する電話ネットワークが世界中に構築されてきました。電話ネットワークの普及とともに、音声、映像、データといったマルチメディアを統合して扱う研究が活発に行われましたが、通信コストなどの諸条件が実用レベルに届かず、大きな展開には至りませんでした。

1994年、WWW (World Wide Web) ブラウザが無料配布されるとともに、インターネット人口が急激に増え始めました。インターネットは帯域を共有し、情報をパケット (小包) 化して伝送するために、マルチメディアを統一的に扱いやすい特徴があり、今日では、イントラネットなど企業内ネットワークへと普及・拡大しています。

この特集で紹介するビジュアルコミュニケーションシステムは、使い慣れた電話操作により、各自のパソコン画面の上で、あたかも同じ場所にいるがごとく、相手の顔を見たり、いっしょに共通の資料を見たり、あるいは補助的な情報を得ながらコミュニケーションができるもので、移動のための費用や時間を節約できるだけでなく、時間と空間を超えて、ビジュアルに議論のできる環境を構築することができます。

企業などの業務効率改善と価値創造活動に役だつコミュニケーションシステムであると確信しており、東芝が総合力を発揮して取り組んでいる、映像を中心としたマルチメディアコミュニケーション応用の一端としてご理解いただければ幸いです。



閏井 清
URUI Kiyoshi